

International Journal of Childbirth 2011年第1巻第2号(英語)

ICM から ICM 公式雑誌(年〇回発行)が届きました。雑誌の概要をお知らせします。

タイトル	著者名	概要
初産の女性に関する妊娠第3期と分娩後1年目における尿失禁の危険因子の蔓延	・Linda Birch ・P.M. Doyle	分娩後の尿失禁を引き起こす要因は様々である。20歳以下の若い妊婦は分娩後の尿失禁の割合が高く、感染率の増加とも関係がある。BMI20以下の妊婦、小水排泄をしない長時間の分娩、かん子分娩、会陰部のトラウマもストレス性の失禁との関連性がある。また、帝王切開は尿失禁を予防する為の処置にもかかわらず、長期間の調査によると、むしろ症例を増やしている。新生児体重、分娩時間、授乳法、硬膜外麻酔、喫煙はあまり重要な原因ではない。
分娩処置のインフォームドコンセントに関する分娩室の文化の権力と効果を調査する観察研究	・Jayne E. Marshall ・Diane M. Fraser ・Philip N. Baker	病院内での分娩処置に関するインフォームドコンセント(以下、コンセント)の概念を探求した研究である。妊婦の選択は限定され、コンセントもほとんど得られていない。どのような出産環境であるかが、女性の選択やコンセントを得ることに影響を与えている。今後の専門家による研究は妊産婦のニーズと期待に応えるものであるべきである。
英国において目的達成された計画的自宅出産に関する特徴—1988~2000年の北西部テムズ地域における515,777人の妊婦に関する観察研究—	・Andrea Nove ・Ann Berrington ・Zoe Matthews	この研究は、英国において、病院出産よりも、自宅出産を望む妊産婦について調べたものである。北西部テムズ地域の15の病院からの妊産婦の記録に基づいた観察研究である。白人で、出産経験があり、30歳前後で、比較的裕福な地域に暮らす妊婦が自宅出産を選択する傾向にある。また、出産直前に自宅出産に切り替える女性は、出産時リスクの低いケースが多い。
危機や逆境を生き抜いた母親のためのガイド—幼少期の虐待や性的トラウマを抱える妊婦のための特別心理教育プログラムの開かれた案内書—	・Julia S. Seng ・Mickey Sperlich ・Heather Rowe ・Heather Cameron ・Anna Harris ・Sheila A. M. Rauch ・Susan A. Bell	このガイドは、過去の虐待経験やトラウマに苦しむ妊産婦が、自ら学習できるように10段階の基準が設定されるなど、完全にマニュアル化されている。ガイドの目的は、利用者の感情制御を助け、対人関係での反発を抑え、PTSDの症状に対処することである。研究グループは、妊娠28週目の被験者達に、電話調査、事前・事後テスト、自己申告テストなどのあらゆる手段を通して、このガイドの有効性を調査し、被験者の多くに関して、感情表現や対人関係、PTSD症状における改善が見られ、効果が実証された。
危機や逆境を生き抜いた母親のためのガイド—幼少期の虐待や性的トラウマを抱える妊婦のための特別心理教育プログラムの実行性、安全性、受容性—	・Mickey Sperlich ・Julia S. Seng ・Heather Rowe ・Heather Cameron ・Anna Harris ・Angela McCracken ・Sheila A. M. Rauch ・Susan A. Bell	虐待経験やPTSD症状を持つ妊婦は、出産に関する心身の健康に悪影響が出るリスクが高い。本章では、こうしたハイリスク妊産婦のニーズに対応したガイドの実行性、安全性、受容性を考察している。リソースが十分でない場合でも、このガイドのマニュアルへの信頼性が高ければ、指導者による介入も有効であるとの結果が得られた。被験者からの満足と評価が報告されており、このガイドは、利用しやすく安全で、かつ満足できるものであると立証された。

* 本会図書館のコピーサービスによる入手が可能です。